

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代の国語	単位数	2単位
区分	必修	配当年次	1年次

1 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、
 ①実社会に必要な国語の知識・技能 ②論理的思考と豊かな想像力 ③言葉の価値への深い認識と、その言葉を通して他者と関わる積極的な態度 の三つを養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
		(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること。	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業時の小テストの成績 ・ 授業中の発言内容 ・ 提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査①～⑤の成績 ・ 授業の振り返り記録 ・ 単元のまとめ記録 ・ 授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での聞く態度 ・ 授業での話す態度 ・ ノートの作り方 ・ 話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・ 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数		
前期	4月	【理解】こそそめスープ 筆者の捉え方を理解し、自分に照らして考えを深める。	定期考査①	15		
		【表現】学び直し(1) 常用漢字8級範囲の復習と漢字熟語の理解				
	5月	【理解】ルリボンカミキリの青 自己を見つめ直し、興味・関心を持ってやることの意義を考える。				
		【表現】学び直し(2) 常用漢字8～7級範囲の復習と漢字熟語の理解				
	6月	【理解】未来をつくる想像力 情報のあふれるメディア社会の未来と危険を考える。			定期考査②	15
		【表現】学び直し(3) 常用漢字7級範囲の復習と漢字熟語の理解				
7月	【理解】水の東西 日本と西洋の文化の比較を通して、日本文化の特質を理解する。	定期考査③	16			
	【表現】学び直し(4) 常用漢字6級範囲の復習と漢字熟語の理解					
8月	【理解】スキマが育む都市の緑と生命のつながり 情報を整理しながら、提示された視点について理解する。					
	【表現】学び直し(5) 常用漢字5級範囲の復習と漢字熟語の理解					
後期	10月			【理解】鍋洗いの日々 筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	定期考査④	16
				【表現】原稿用紙の使い方 縦書き・横書きそれぞれの様式を理解し、新聞コラムを筆写することによって慣れる。		
	11月	【理解】森で染める人 社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。				
		【表現】原稿用紙に書く 縦書き・横書きそれぞれの様式で、短文を書く。				
	12月	【理解】美しさの発見 「美」という抽象的な題材の文章を読み、論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	定期考査⑤	16		
		【表現】要約の練習(1) 新聞コラムを使って要約の方法を理解する。				
	1月	【理解】りんごのほっぺ 戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。				
【表現】要約の練習(2) 新聞コラムを要約した上で、感想や意見を書く。						
2月	【表現】論述の練習(1) 新聞社説等、やや長い文章を要約した上で、意見を述べるための構成を考える。					
3月	【表現】論述の練習(2) 新聞社説等、やや長い文章を要約した上で、意見を書く。					

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
- ・ 教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
- ・ 配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
- ・ 課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
- ・ 授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編 現代の国語 (東京書籍) 常用漢字ワイドアルファ (桐原書店)

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	言語文化	単位数	2単位
区分	必修	配当年次	2年次

1 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。特に、
 ①実社会に必要な国語の知識・技能 ②論理的思考と豊かな想像力 ③言葉の価値への深い認識と、その言葉を通して他者と関わる積極的な態度 の三つを養うことを目標とする。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること。	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中の発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数		
前期	4月	【理解】 さくらさくらさくら 筆者の捉え方を理解し、桜に対する感性を感じ取る。	定期考査①	15		
		【表現】 学び直し(1) 常用漢字4級範囲の復習と漢字熟語の理解				
	5月	【理解】 とんかつ 会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。				
		【表現】 学び直し(2) 常用漢字3級範囲の復習と漢字熟語の理解				
	6月	【理解】 短歌・俳句 短歌・俳句に親しみ、深く読み味わう力を養う。			定期考査②	15
		【表現】 学び直し(3) 常用漢字準2級範囲の復習と漢字熟語の理解				
	7月	【理解】 羅生門 極限状況にある登場人物の心情とその変化を読み取る。			定期考査③	16
		【表現】 学び直し(4) 常用漢字2級範囲の復習と漢字熟語の理解				
	8月	【理解】 夢十夜 表現に即して小説を丁寧に読み味わい、独自の世界について理解する。				
【表現】 学び直し(5) 漢字熟語の構成や四字熟語に関する理解						
9月	【理解】 デューク 主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。					
	【表現】 学び直し(5) 漢字熟語の構成や四字熟語に関する理解					
後期	10月	【理解】 古文に親しむ 古文と現代文との違いを知り、基礎となる文語のきまりを理解しよう。	定期考査④	16		
		【表現】 原稿用紙の使い方 縦書き・横書きそれぞれの様式を理解し、新聞コラムを筆写することによって慣れる。				
	11月	【理解】 絵仏師良秀 説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。				
		【表現】 原稿用紙に書く 縦書き・横書きそれぞれの様式で、短文を書く。				
	12月	【理解】 徒然草・枕草子 古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを捉える。			定期考査⑤	16
		【表現】 要約の練習(1) 新聞コラムを使って要約の方法を理解する。				
	1月	【理解】 伊勢物語 歌物語の展開や表現の特色に注目しながら、物語を読み味わう。				
		【表現】 要約の練習(2) 新聞コラムを要約した上で、感想や意見を書く。				
	2月	【理解】 漢文入門 訓読の基本を知り、漢文に親しむ。				
【表現】 論述の練習(1) 新聞社説等、やや長い文章を要約した上で、意見を述べるための構成を考える。						
3月	【表現】 論述の練習(2) 新聞社説等、やや長い文章を要約した上で、意見を書く。					

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
・教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

新編 言語文化 (東京書籍)	常用漢字ワイドアルファ (桐原書店)
----------------	--------------------

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。
 ※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	文学国語③	単位数	2単位
区分	選択	配当年次	3年次

1 科目の目標

教科書に書かれた近現代のさまざまな文章を読むことによって、現代日本の文化と言語活動の基層となる表現様式について学ぶ。また、さまざまな作品から、思考様式や批評精神について学び文化創造の基礎となる価値観や問題意識のあり方について学ぶ。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
		(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること。	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度・授業での話す態度・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

教科書本文の読み。漢字学習と本文の概略の確認。重要語句の意味の確認。ノートやプリントを使った内容のまとめ。

		学 習 の 内 容	考 査	時 数
前期	4月	I部 随筆「光の窓」「雨月物語」(読み、漢字・読解)	①	15
	5月	I部 小説「山月記」		
	6月	I部 小説「山椒魚」	②	15
	7月	I部 評論「言葉を生きる」(読解)		
	8月	〃		
9月	I部 詩・短歌(語句の解釈・作者紹介・現代語訳・作品鑑賞)	③	16	
後期	10月	I部 小説「沖縄の手記から」(読み・漢字と語句の意味、読解)	④	16
	11月	I部 小説「こころ」(朗読、読解)		
	12月	I部 評論「文学のふるさと」(読み、漢字・語句の意味調べ)	⑤	16
	1月	I部 評論「文学の未来」(読解)		
	2月	I部 小説「鞆」「あの朝」(読解)		
3月				

5 学習にあたっての注意とアドバイス

遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。

教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。

配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。

課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。

授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

東京書籍『文学国語』

※指導計画の内容は、進捗等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	文学国語④	単位数	2単位
区分	選択	配当年次	4年次

1 科目の目標

教科書に書かれた近現代のさまざまな文章を読むことによって、現代日本の文化と言語活動の基層となる表現様式について学ぶ。また、さまざまな作品から、思考様式や批評精神について学び文化創造の基礎となる価値観や問題意識のあり方について学ぶ。

授業の進め方

教科書本文の読み。漢字学習と本文の概略の確認。重要語句の意味の確認。ノートやプリントを使った内容のまとめ。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)話し言葉と書き言葉の特徴や役割について、理解し使うことが出来ること。 (2)実社会において理解したり表現したりするために必要な語句を増やし、的確に使えるようになること。 (3)引用の仕方や出典の出し方、その必要性について理解を深め、使えること。	(1)目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できること。 (2)論点の展開を予測しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、自分の考えを広げたり深めたりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取るうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようと努めていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～⑤の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度・授業での話す態度・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

		学習の内容	考査	時数
前期	4月	Ⅱ部 随筆1 [国語から旅立って] 「書かれた風景の中へ」 (読み・読解)	①	15
	5月	Ⅱ部 小説1 「檸檬」 「コンビニの母」 (読み・読解・鑑賞)		
	6月	Ⅱ部 詩歌 (読解・鑑賞)	②	15
	7月	Ⅱ部 随想2 「空っぽの瓶」 「クレールという女」 (読み・読解)		
8月	Ⅱ部 戯曲 「父と暮らせば」 (読み・読解・鑑賞)	③	16	
9月				
後期	10月	Ⅱ部 小説2 「舞姫」 (読み・読解・鑑賞)	④	16
	11月			
	12月	Ⅱ部 評論 「演技する私」 (読み・読解)	⑤	16
	1月	Ⅱ部 評論 「映画の可能性のために」 (読み・読解)		
2月	Ⅱ部 小説3 「葉桜と魔笛」 「蠅」 (読み・読解・鑑賞)			
3月				

5 学習にあたっての注意とアドバイス

遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。

教科書やノート、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。

配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。

課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。

授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 教科書・副教材

東京書籍『文学国語』

※指導計画の内容は、進度等によって変更することがある。

※1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	古典読解(公開講座の予定)	単位数	2単位
区分	選択(「国語」/学校設定科目)	配当年次	3または4年次

1 科目の目標

古文、漢文の読解力と鑑賞力を身につけ、おもしろさを味わう。古文では、日本古来の伝統文化に対しても興味関心を深め、漢文では基礎的な訓読をマスターし、漢文特有な言い回しが、現代にも散見されることに気づき、言語の世界を広げる。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	(1)日本の言語文化に特徴的な語句を理解し、文章の中での実例を通して語感を磨くこと。 (2)古典の世界に親しむために、古典特有の表現や文語のきまりなどについて理解すること。	(1)作品の成立した背景を踏まえた上で、内容の解釈を深めること。 (2)作品を味わい、自分の考えや評価を適切に表現すること。 (3)古典から受け継がれた作品や表現について調べ、まとめたり発表したりできること。	(1)授業の説明をきちんと聞き取ろうとしていること。 (2)ノートやメモを取り、自分の考えまとめる努力をしていること。 (3)各時間ごと、自ら課題を設定し、解決しようとしていること。 (4)自分の考えを伝えるための工夫と努力を行い、他者の考えを理解しようとしていること。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の成績 ・授業時の小テストの成績 ・授業中の発言内容 ・提出課題の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の成績 ・授業の振り返り記録 ・単元のまとめ記録 ・授業中の発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での聞く態度 ・授業での話す態度 ・ノートの作り方 ・話し合いの中での発言内容と聞く姿勢 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学習内容	考査範囲	時数
前期	4月	「十訓抄」 大江山いくのの道	①	16
	5月			
	6月	作品の冒頭から作者の主張をとらえる。 「安元の大火」の描写力について学ぶ。解釈を深めた上で、文章を評価する。「方丈記」の他の段を各自調べ内容等をレポートにまとめる。 漢文の基本を復習するとともに、内容を読み味わう。	②	13
	7月			
8月	「方丈記」安元の大火 漢文 故事「知音」	③	16	
9月				
後期	10月	「大鏡」 競べ弓 漢文 故事「画竜点睛」	④	18
	11月			
	12月	書き下し文を正確に行う。 漢文の史伝をいくつか読むことにより、漢文に慣れ、おもしろさを味わう。 文章に描かれている人物の心情に迫り、歴史上の英雄に思いを寄せ、世界観を広げる。 当時の貴族社会について学びながら「もののあはれ」について考える。	⑤	15
	1月			
	2月			
3月				

5 学習にあたっての注意とアドバイス

・遅刻や欠席をせず、前の時間とのつながりを意識して授業に臨み、次の時間へとつなげていく意識をもつ。
・辞書、タブレット、資料集などを忘れないよう持参し、授業の中できちんと活用する。
・配布されたプリント類は、科目のファイルにきちんと整理し、いつでも見返せるように保存する。
・課題提出の締切を守り、丁寧に書くことを心がける。また記名についても忘れないようにする。
・授業で紹介された書籍や資料は、図書館等を活用して、積極的に読むよう、心掛ける。

6 備考

関連として、適宜百人一首を味わう。

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	わかる国語	単位数	2単位
区分	選択(「国語」/学校設定科目)	配当年次	3または4年次

1 科目の目標

ことわざや慣用句などを日常会話で適切に使えるよう、正しい意味や使用場面について考える。
 故事成語などの漢文的な教養や百人一首などの我が国の古典に親しむ心を養う。

2 評価方法

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なことわざや慣用句の意味についての理解。 ・不明なものについて自ら調べることができる検索技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な場面においてそれらの言葉が使える判断力。 ・故事成語の原典を読んで日本語として考えられる思考力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書やコンピューター等を自らの工夫を交えて適切に利用しようとする意欲。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・語の理解を踏まえての語彙力としての定着ぶり ・検索方法や技術の向上ぶり 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを想定した使用例が想像できるかのシミュレーション ・古典(漢文を含む)の表現を現代生活に活かせる思考 	<ul style="list-style-type: none"> ・エクセルへの入力状況 ・出席状況

4 年間指導計画

		学習の内容	考査	時数
前期	4月	・私版「ことわざ・慣用句辞典」の作成計画(データ並べ替え等の整理)	(③)	16
	5月	・同上 あ行		
	6月	・同上 か・さ行		13
	7月	・同上 た・な行		
	8月	・同上 は・ま行		
9月	・同上 や・ら・わ行	16		
後期	10月	・故事成語の学習 知っているものの列挙と意味の確認	(⑤)	18
	11月	・四字熟語の理解 知っているものの列挙と意味の確認		
	12月	・漢文原典の理解 比較的読みやすい漢文の訓読と解釈		15
	1月	・百人一首の理解と暗唱		
	2・3月	・学習の振り返りとまとめ		

5 備考

辞書やインターネットを利用して検索し、コンピューター(各自のタブレットを含む)を使って整理する。
 受講者の状況によって電算室を使用する。

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	ベーシック国語	単位数	1単位
区分	選択(「国語」/学校設定科目)	配当年次	3年次

1 科目の目標

<p>漢字検定5級程度の漢字学習から始め、最終的に漢字検定3級から2級の受験ができるような力を養う。</p> <p>* 1日10分で1年間の継続授業なので、単調にならないよう教材・学習方法に変化を持たせる。 * 実際の指導は担任なので、生徒が学習しやすいように、解答や解説をを付けるなどの配慮をする。 * 時間内で完結するよう、教材を工夫・精選する。 * 前期・後期で国語科が評価のまとめを行う。 * 達成状況をみながら、前期は基本的な内容、後期は発展的な内容とする。</p>
--

2 評価の観点と評価基準及び評価方法と評価の場面

評価基準	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況
評価の方法と場面	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	「定期考査の成績、授業中の演習問題の解答内容、提出物の完成度」等により評価する。	「定期考査の評価該当箇所の成績、授業中の演習問題の解答方法、提出物の完成度、授業中の回答」等により評価する。	「出席状況、授業での説明を聞く態度、提出物の完成度、生徒の自己評価」等により評価する。

3 年間指導計画

		学習の内容	考査	時数
前期	4月 5月	漢字を読む力、書く力（漢字検定5～4級程度）	①	8
	6月 7月	漢字を読む力、書く力（漢字検定4級程度）	②	7
	8月 9月	漢字検定3級程度 読み・書き・同音・同訓異義語・対義・類義語・誤字訂正・部首・熟語の訂正	③	8
後期	10月 11月	漢字検定準2級程度 読み・書き・同音・同訓異義語・対義・類義語・誤字訂正・部首・熟語の構成	④	9
	12月 1月 2月 3月	漢字検定2級程度 読み・書き・同音・同訓異義語・対義・類義語・誤字訂正・部首・熟語の構成	⑤	7